

高架切り替え 新日向市駅開業 大勢の市民 新玄関口の誕生祝う

日向市のＪＲ日向市駅周辺で進められてきた日豊線の高架事業に伴う「高架切り替え・新駅開業式」が１７日、新日向市駅で行われた。同市出身で、プロ野球東京ヤクルトスワローズで活躍する青木宣親選手が一日駅長を務めたほか、駅前ではステージイベントもあり、大勢の市民が新たな玄関口の誕生を祝った。

同事業は、県や日向市、ＪＲ九州が１９９８年度に着手。日向市駅を中心に南北約１．７キロが高架化されたほか、耳川流域産スギ材をはりや天井に使った、斬新なデザインの新駅舎が整備された。

式典には、関係者約１５０人が出席。日向市の黒木健二市長は「悲願というべき事業が完成し感慨無量。シンボルとなる新駅を中心に、トータル的なまちづくりを進めたい」とあいさつ。ＪＲ九州の石原進社長は「地域の皆さまに愛されるようサービスに取り組みたい」と話した。

午前１１時２４分発下り特急にちりん５号に合わせた出発式では、一日駅長を務めた東京ヤクルトスワローズの青木宣親選手と、地元の少年野球チームに所属する那須瑞稀ちゃん（１０）が発車の合図。見学に来ていた同市曾根町のアルバイト畑中直子さん（２６）は「スギ材を使うなど、宮崎らしい立派な駅ができてうれしい」と誇らしげ。同市永江町の会社員三輪寿さん（４９）も「新駅開業をきっかけに、まちの中心部が元気になれば」と期待を込めた。

日向市駅のホームで列車の出発を告げる一日駅長を務めたヤクルトスワローズの青木宣親選手（壇上右）



開業に合わせて 曳山の山車製作 上町商店街関係者

新駅開業に合わせ、新たに作られた「日向曳山」の山車も披露された
新日向市駅の開業に合わせ、駅前にある上町商店街の関係者が中心となって製作した「日向曳山（ひむかひきやま）」の山車が17日、市民らに披露された。

山車は高さ3.8メートル、長さ3.5メートル。屋根下の欄間に神武天皇が日向国から東征（とうせい）に出発した「お船出」伝説があしらわれ、椎葉村の「鶴富姫（つるとみひめ）恋物語」に登場する那須大八郎と鶴富姫の人形が置かれるなど日向・入郷地区の文化を凝縮した。

9月の十五夜祭りでは市内の商店街がトラックの荷台を飾り付けた「屋台」を出す、その数は年々減っているだけに、日向曳山保存会の日高伸次郎さん（59）は「新たな伝統をつくるだけでなく、多くの祭りに参加してまちを活性化させたい」と意気込んでいた。

